植木病院だより

Vol.31
令和元年10月

発行所 〒861-0136 熊本県熊本市北区植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
熊本市立 植木病院
発行人 掃本誠治





今年の夏も猛暑から酷暑の日が続きさらに台風も日本列島を襲い、自然災害の怖さを再認識した日々でしたが、被災されました方々には心よりお見舞い申し上げます。熊本地震から3年半が経過し復旧・復興は着実に進んでいると思いますが、いまだ道半ばであることを一市民として忘れず、対応していきたいと思います。

さて、当院は、本年4月から新しく5名の医師を迎え、"地元でできることは地元で"の方針に則り船出しましたが、地域住民、医療機関の皆さまには、日頃より当院にご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。着任後早速、植木病院5ヶ年再生計画を作成し保健・医療・福祉の分野で当院としての役割を明確にし、できることから実行し、地域医療を担っていきたいと考えております。

診療面では、4月からの外科医師交代に伴い内科・外科の連携がスムーズとなり外科手術症例が増加し、整形外科医師増員に伴い骨折の手術も開始して順調に症例が増えております。これまで、「植木では手術はできないのですか」というお声をいただいておりましたので、やっと応えることができるようになりました。さらに、菊池を含めて山鹿、植木の鹿本地区は専門的な心臓カテーテル検査・治療がおこなわれておりませんでしたので、7月からステント治療などの経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を含めた血管造影を再開しました。血管造影の適応となる患者さんは糖尿病合併が多く、循環器内科のみならず、脳神経外科にも協力を頂きながらすすめております。当院ですべてを治療するということではなく、人的、時間的、物的な制限がありますので、できることは地元で行いつつ、何がこの患者さんにとってベストかを考え、必要であれば、熊本大学病院をはじめ高度急性期病院に速やかに搬送できるよう日頃から密に連絡をとり北部地域におけるハブ施設としての役割を担っていくことが、地域住民、医療機関の皆さまの期待に応えるひとつと考えております。

学術面では、北部・鹿本地区研究会を立ち上げ、7月に植木文化センターで最初の勉強会を開催しました。今後も3ヶ月に1度程度、地域の病・医院の皆さまと医療・症例に関する知識・情報の交換ができればと考えておりますので、ご参加をお待ちしております。

保健・福祉の面では、地域包括ケアシステムの中核を担う病院として、いわゆる"みなし"訪問看護から、"みなし"をはずして訪問看護ステーションに令和2年度を目標に昇格させる方針としましたが、近隣の施設、開業医の皆さまのご指導を仰ぎながら進めたいと考えております。

病院隣には、植木中央公園運動施設が整備されました。地域住民の安心・安全で健康的な生活を支援する公立の自治体病院としての役割をしっかり見つめ直し、地域住民、近隣医療機関の皆さまに頼りにされる病院を職員一丸となって目指しますので、今後とも皆さまのご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

病院長　掃本 誠治

外来診療のご案内

（2019年10月1日現在）

		診察室	月	火	水	木	金
内科	午前	内科①	豊田　直以	三原　通晴	三原　通晴	豊田　直以	三原　通晴
		内科②	熊大病院医師	一森　伸二	一森　伸二	一森　伸二	
		内科④					熊大病院医師
	午後	外科処置室				フットケア（一森）	
循環器内科	午前	循環器内科	廣田　晋一	廣田　晋一		廣田　晋一	熊大病院
				掃本　誠治	掃本　誠治		掃本　誠治
	午後	診察室②	ペースメーカー外来（年2回）				
整形外科	午前	整形①	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久	紫垣　光久
		整形②	千丈　実香	橋本　憲蔵	橋本・千丈	千丈　実香	橋本　憲蔵
外科	午前	外科①	本田　志延	川田　康誠	本田　志延	川田　康誠	本田　志延
脳神経外科	午前	診察室②	吉里　公夫	吉里　公夫		吉里　公夫	吉里　公夫
呼吸器内科	午前	診察室②					熊大病院（内科④）
健診	午前	健診科診察室	鶴本　泰之	鶴本　泰之	鶴本　泰之	掃本　誠治	鶴本　泰之
上部消化管内視鏡検査（GS）	午前	内視鏡室	川田　康誠	豊田　直以	豊田　直以	三原　通晴	木庭（不在時豊田）
下部消化管内視鏡検査（CS）	午後	内視鏡室	三原　通晴	豊田　直以	豊田　直以	三原　通晴	施行医予約

診察受付時間：平　日／ 8：15～11：30
13：30～16：00

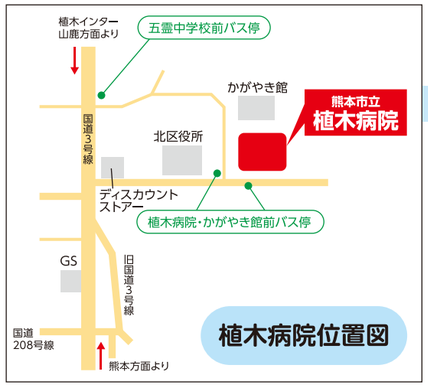
休　診　日：土曜日・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）

※ 急患の方はこれに限らず24時間対応致します。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」がございますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

地域医療連携室
電話：TEL096-273-2111（代表）
FAX096-272-2117（代表）



交通アクセス

路線バス　九州産交バス「A4-1」「A4-2」「U2-1」：北区役所・小野泉水 行
熊本電鉄バス「C4」：北区役所 行
いずれも「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

循環バス　ゆうゆうバス植木循環ルート
「植木病院・かがやき館前」バス停で下車

乗用車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道 北熊本スマートインターから5分
植木インターから10分

編集後記

静かに更けゆく秋の夜長を、いかがお過ごしでしょうか。今年度は5月1日より新元号【令和】になりました。令和とは万葉集からの典拠で『人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ』という意味が込められているそうです。平和な平成を引き継ぎ、令和が希望に満ちた新時代になることを期待します。植木病院も今年度は新病院長の下で患者に寄り添う医療を心掛け、病院の更なる発展に向けて頑張りたいと思います。　T・F

整形外科手術を再開しました。

当院では、今まで外科手術は行ってきましたが、本年度から新規に整形外科医師の増員により、整形外科手術を再開することになりました。手術室の環境整備やスタッフの指導を行うことにより、手術が可能となっています。

整形外科手術において、感染対策として清潔操作が必要不可欠ですが、当院の手術室には、それに対応したクリーンルームが一部屋完備しています。その部屋を中心に手術を行いますが、その他にも2部屋手術室を備え、より多くの手術が可能となっております。



近年の高齢化社会が進み、軽微な転倒で大腿骨近位端骨折（大腿骨の付け根の骨折）、撓骨遠位端骨折（手首の骨折）が非常に多くなっています。高齢者の骨折は早期に手術を行い、早期リハビリを行うことで筋力と可動域低下を防ぐことができ、元の生活、歩行能力に戻ることが報告されています。当院では一日でも早く手術を行い、入院生活を送れるように調整を行っています。

局所麻酔での手術も行っています。腱鞘炎（指を曲げたときに痛みがある）、手根幹症候群（指先がしびれる）などは、外来手術も可能ですので、手の症状でお困りの方は、当院整形外科を受診してください。

（整形外科医　橋本憲蔵）

●心臓カテーテル検査・治療について●



当院では7月から心臓カテーテル検査・治療を行っています。

心臓を養っている3つの大きな血管が狭くなると、心臓の動きが低下し、胸部痛を伴う場合は狭心症となり、さらに悪化すると心筋梗塞という怖い病気になります。それを検査するには心臓CTや心臓カテーテル検査を行う必要があります。

臨床工学技士は機器を医学的・工学的に操作し、医師やコメディカルスタッフとともに治療を行っています。

当院の血管内超音波装置(IVUS)は最新の60MHzに対応しており、10μm単位で血管径や血管内腔・病変長・プラークの性質や量を計測・解析し、狭くなった血管を広げるバルーン(風船)やステント(金網)のサイズを決定、適切な血管内治療を可能としています。

今後も患者さんのご負担を軽減できるよう適切な検査・治療に努めたいと考えております。

（臨床工学技士　池田浩人）

●インフルエンザ予防接種のご案内●（要予約）



毎年流行が見られるインフルエンザは、ワクチン接種で予防することがもっとも有効とされています。予防が一番ですが、もしインフルエンザにかかってしまっても症状を抑え肺炎などの重症化を防ぐことができます。当院ではかかりつけの方を中心に10月より受付を開始しております。予約制ですので早めのご予約をお勧めします。

<予約方法>

初診の方

平日午後に電話にてご予約下さい。問診票は当日受付にてお渡し致します。他院かかりつけの場合は接種可能であるか主治医への確認が必要となります。また、小児は受け付けておりません。

当院かかりつけの方

外来受診時に担当医に予防接種希望の旨をお伝え頂くと予約を取ると同時に問診票を渡しますので当日記入されたものをご持参ください。

※費用や接種開始時期に関しましては今年度のインフルエンザワクチンの入荷状況により異なります。また、接種される方のご年齢やご住所によっても補助の金額が変わりますので、インフルエンザワクチンの接種時期になりましたらお気軽に問い合わせください。

●ノロウィルスについて●

病気の特徴

ノロウィルスという名前のウィルスによって起こる腸炎で、冬に多く起こります。

症状は、下痢・発熱・腹痛・嘔吐などです。感染経路は、食べ物では貝類（特にカキ）が原因です。他にも、ノロウィルスの患者さんが触ったトイレ、ドア、机からも感染し、調理に関わると、集団感染を起こす危険があります。ノロウィルスは寒さや乾燥に強く、感染力が強いので、とても移りやすく広がりやすいのが厄介です。

日常の注意点は“手洗い”です。流水と石鹸で十分に手洗いすることが大事です。

もし、ノロウィルスと診断されたときには、人にうつさないようにすることが大事です。**嘔吐物や下痢を触らない。触らなければいけないときは、手袋とマスクを着けて、嘔吐物を処理した後には、50倍に薄めたハイターで拭き取るとウィルスの広がりを抑えることができます。**



できるだけ水分やゼリーなど、食べられるものを食べて、水分を摂れないほど嘔吐が続く場合は病院を受診してください。

（内科医　豊田直以）

お知らせ

9月末で整形外科医の酒本先生が市民病院に戻られ、10月1日から千丈（ちじょう）先生が植木病院に新しく赴任されました。